



## 第8章 豊田市が目指す森づくり

豊田市は、第6章で述べた各種施策を確実に実行することにより、20年後には間伐手遅れ林（過密人工林）を一掃して、森林の持つ公益的機能を十分に発揮することを、目標としています。

### 1. 森林の特性に応じた森林管理の手法

#### ① 森林区分

森林をその種類や特性に応じて区分し、区分毎に補助対象や補助率を変えることなどにより限られた予算を有効に活用することができます。（P.11～12）

そのうち針広混交林は新しい概念で、中でも、尾根筋、沢と溪流沿いなど環境保全上必要な場所では針広混交林を経て天然林化を促進していきます。

実行にあたっては、森林所有者の理解を得ることが最大の課題です。

#### ② 強度間伐と巻枯らし間伐の普及

人工林を早期に針広混交林化するためには、林床に達する日照を多くする必要があります。そのためは、従来の30%程度の通常間伐ではなく、40～50%程度の強度間伐の実施が必須となります。

間伐手遅れ林の多くは、現実には、樹高が高い割には葉が梢付近にわずかしかない林（もやし林と呼ばれる）が多く、強度間伐をすると強風や積雪による倒木や折損が心配されます。それに対処するため、巻枯らし間伐を森林の状況に応じて適用していきます。



<強度間伐施業地>

#### ③ 貴重な植生保護林の保全

市内の森林には、全県的に見ても非常に貴重な植生が残されています。豊田地区の猿投山東の宮付近や六所山山頂付近、旭地区の伊熊神社社叢、稲武地区の面の木峠付近などに、原生林やそれに近い天然林があり、豊かな動植物相を見ることができます。これらの森林は、自然公園特別地区や自然環境保全地域に指定されており、今後も保全していきます。

#### ④ 竹林の対策

人工林や天然林に侵入してきている竹については、森林管理の基本方針（P.11）に定める森林区分に応じた対応を図ります。

### 2. 森林に関する豊田市の独自施策

広大な市内の森林を保全していくためには、多様な施策を複合的に組み合わせて実施することが必要です。その中には、すでに実施している豊田市独自の施策がいくつかあります。

#### ① 森のカルテによる森林現状把握

人工林を適正に管理するためには、まず、その現状を把握する必要があります。森のカルテは文字通り人工林の診断書で、森林所有者の承諾を得た上で、森林組合職員等が実際に現地調査を行ない、傾斜、土壌の有無、細根の露出、下層植生の状況、立木密度、樹高などを測定し、森林の込み具合と適正な間伐率を算出します。森林組合は、間伐を実施する時の見積書である森のプランと一緒に森のカルテを所有者に送付し、現状を知ってもらった上で、間伐事業の受託促進につなげます。



## ②豊田市水道水源保全基金の活用

豊田市は全国に先駆けて、平成6年度から「水道料金1m<sup>3</sup>あたり1円」を水源の保全に充てることとし、「豊田市水道水源保全基金」を創設しました。またその資金を使って、森林所有者の負担なしで間伐を実施する「豊田市水道水源保全事業」を平成12年度から17年度までに旧藤岡町など6町村を対象に535ha実施してきました。

しかし、間伐対象地域が合併で全て豊田市内になったことなどから、今後は間伐事業に限らず広く水道水源の保全に資する事業に充てることとし、水源林の保全、簡易水道水源地域の水質改善事業等に取り組めます。



<水道水源保全事業の間伐実施地>

## ③とよた森林学校の充実

セミプロ的に林業作業を行う人材や森林問題に理解のある市民（森の応援団）を養成するため、平成18年度に、豊田市が独自に設置したのが「とよた森林学校」です。長い目で見ると、下流域の都市部住民の理解を得ることは極めて重要であり、森林学校の成果が期待されるため、今後も充実を図ります。

## 3.市町村の枠を越えた流域単位の取組み

水資源のかん養や洪水の軽減のためには、市内の森林だけでなく、さらに上流域の岐阜県恵那市、長野県平谷村・根羽村をはじめ、隣接の岡崎市など、流域が一体となった森林施策等が必要となります。矢作川流域は「流域はひとつ、運命共同体」を合言葉に、様々な流域活動が行われた歴史を持っていますが、近年はその活動が縮小される傾向にあります。

しかしながら、（財）矢作川水源基金による植林・下刈・間伐・作業路等に対する各種助成は現在も継続され、また最近では、森林ボランティアグループの集まりである矢作川水系森林ボランティア協議会や矢作川森の研究者グループが主になって、平成17年から「矢作川森の健康診断」を実施し、森林の保全に市民が関わる新しい活動として注目されています。



<矢作川森林の健康診断(平成17年6月)>

森林の持つ公益的機能をより効果的に発揮させるために上・下流が一体となった共働関係を新しい形で展開できるよう、関係行政機関等と連携して検討していきます。

## 4.みんなで進める新しい豊田市の森づくり

こうした様々な施策を複合させた森づくりは、今、大きな問題となっている地球温暖化防止のための二酸化炭素の吸収・固定にも大いに役立つものです。しかし、森づくりは百年の計であり、短期間で作り上げることはできません。

今後、豊田市はこの「豊田市100年の森づくり構想」に基づき、行政・市民・事業者などがそれぞれの役割を存分に果たしていくことにより、環境・資源・文化ともに豊かな森林を築き上げ、それを次世代に引き継いでいきます。

